

第四次稲城市農業基本計画

～ 次世代に繋ぐ、農とともに暮らすまち ～

概要版



令和3年3月
稲城市



I 計画策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

都市農業を取り巻く環境としては、農地は新鮮で安心な農産物の供給、緑の保全、市民交流の場など多面的な機能を有し、貴重な財産となっている一方、農業者の高齢化などによる担い手不足や相続に伴う農地の減少など、依然として厳しい状況が続いております。

そのような中、国の方針として、農地が「宅地化すべきもの」から都市に「あるべきもの」として位置づけられ、大きく方向転換されました。

稲城市では、平成 23 年 3 月に「一喜びに満ちたふれあいのある稲城農業」をテーマに第三次稲城市農業基本計画を策定し、稲城市の農業の基本的方向を示す役割を果たしてきました。計画策定から約 10 年経過し、さらなる稲城市の農業振興のために検討を行い、第三次の基本精神を受け継ぎながら発展させ、第四次稲城市農業基本計画として策定したものです。

(2) 計画の期間

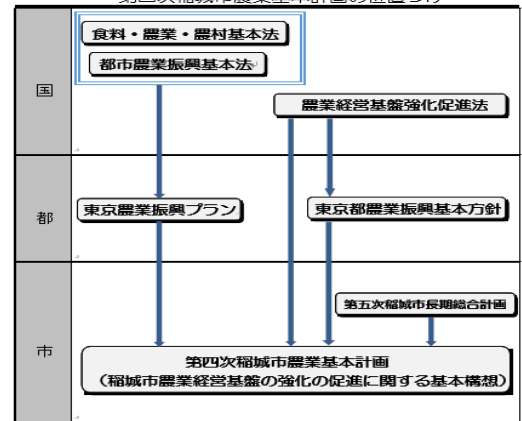
本計画の期間は、令和 3 年度（2021 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの 10 年間とします。

(3) 計画の位置づけ

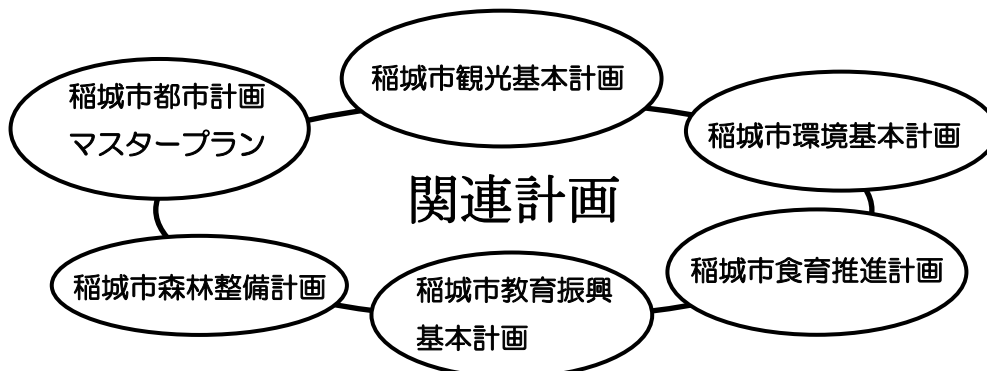
本計画は国の食料・農業・農村基本法、都市農業振興基本法、農業経営基盤強化促進法、都の東京農業振興プランや東京都農業振興基本方針を踏まえたうえで、第五次稲城市長期総合計画との整合性を図りつつ、策定しました。

都市農業振興基本法における地方計画としての位置づけ、農業経営基盤強化促進法第 6 条に基づいた「稲城市農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想」としての位置づけを兼ねるものとします。

農業に関連する法律や東京都の計画、稲城市第五次長期総合計画との位置づけ
第四次稲城市農業基本計画の位置づけ



【農業に関連する市の計画との位置づけ】



Ⅱ 稲城市農業の現状と課題

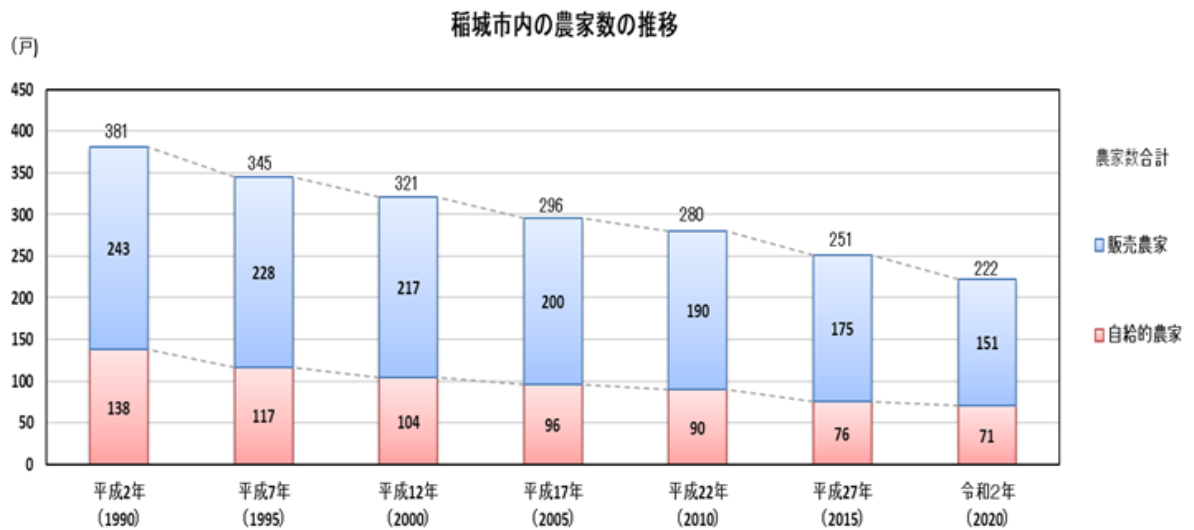
(1) 農家数の推移

令和2年の稲城市の総農家数は222戸で、平成2年の総農家数は381戸と、ここ30年で総農家数は159戸(△41.7%)も減少しています。稲城市においても農家数は東京都内と同様に減少傾向にあることが分かります。

東京都と稲城市の総農家数の推移 単位：戸

	H2年	R2年	減少戸数	減少率(%)
東京都	20,679	9,565	11,114	53.7
稲城市	381	222	159	41.7

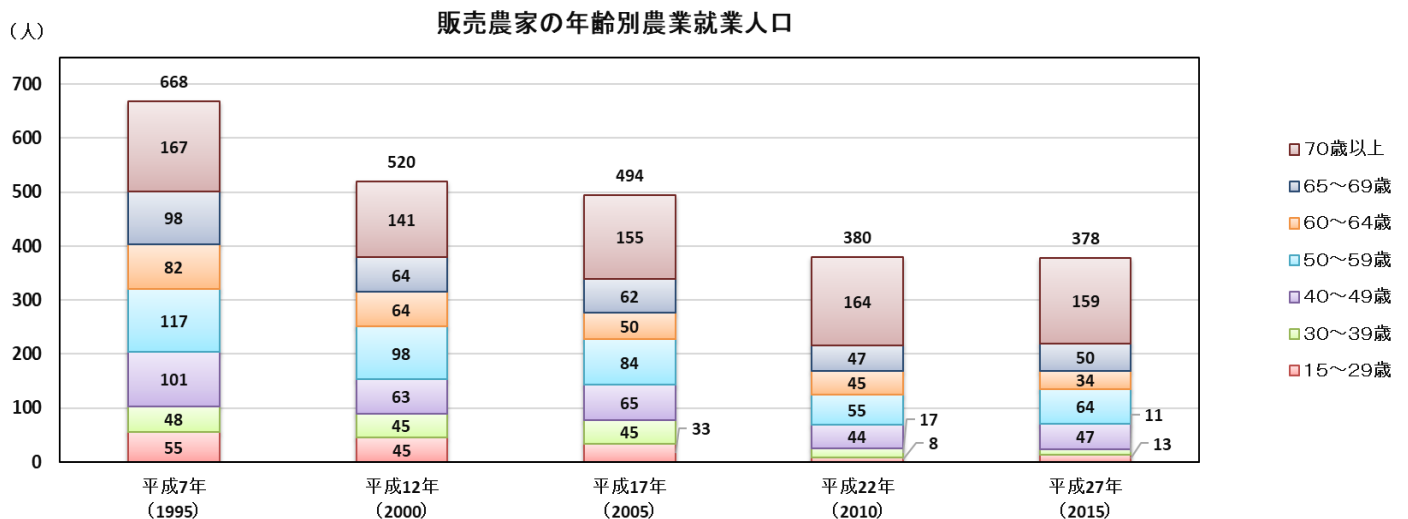
資料：農林業センサス



(2) 農業就業人口の推移

資料：農林業センサス

販売農家の農業就業人口を見ると、平成7年から平成27年の20年間で290人減少しており、さらに農業就業人口に占める65歳以上の割合は39.7%から55.3%と15.6%も上昇しています。これは、農業後継者不足による農業従事者の高齢化を顕著に表しています。



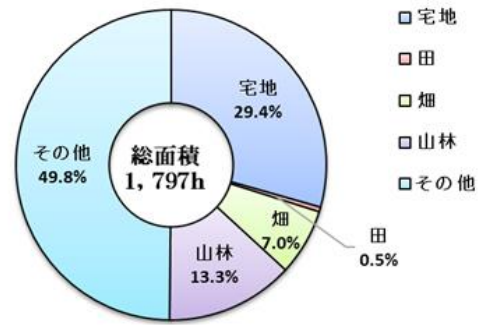
資料：農林業センサス

(3) 農地の状況

総土地面積は 1,797ha で、平成 31 年 1 月 1 日現在、市街化区域 1,581.2ha、市街化調整区域は 215.8ha です。

宅地が 528.2ha (29.4%)、田と畑を合わせた農地が 133.8ha (7.5%) となっており、また、市街化区域のうち生産緑地面積は 103.9ha です。

平成31年度 地目別土地面積の割合

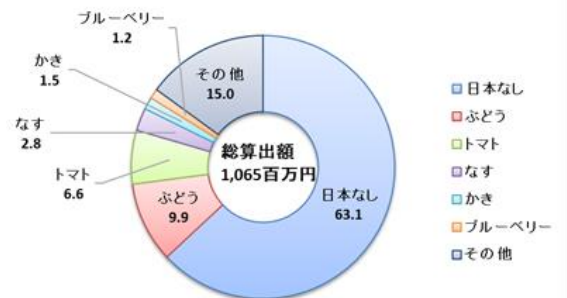


資料：稲城市企画部課税課

(4) 生産品目別農業産出額の割合

稲城市における農業産出額の 63.1% を占めるのは梨です。ぶどうの 9.9% を含めると実に 73.0% を占め、農業産出額にすると約 7 億 7,700 万円もの金額を産出しています。果樹の産出額は都内で最も多く、全国に誇れる稲城市の基幹産業と言えます。

生産品種別農業産出額割合(平成30年、単位:%)



資料：東京都農作物生産状況調査結果報告書

生産品種別農業産出額割合(平成30年)

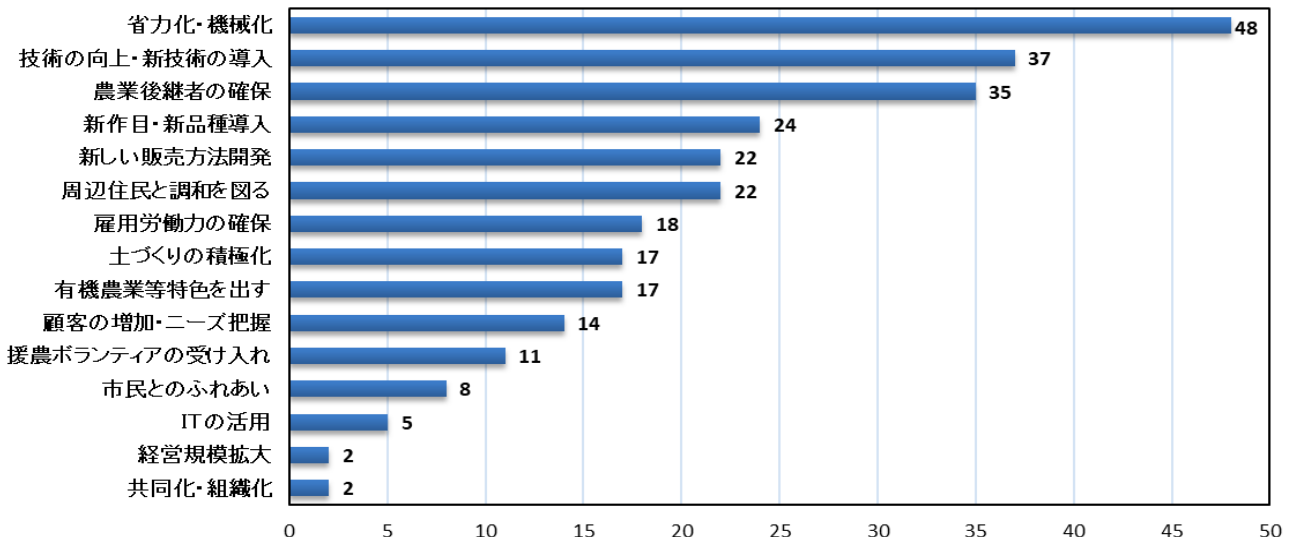
品目	日本なし	ぶどう	トマト	なす	かき	ブルーベリー	その他
割合 (%)	63.1	9.9	6.6	2.8	1.5	1.2	15.0
産出額 (百万円)	672	105	70	30	16	13	159

資料：東京都農作物生産状況調査結果報告書

(5) 農業経営の課題

農業者アンケートでは、今後の農業経営の課題として、省力化や技術の向上などの生産方法の改善や後継者の確保、周辺住民と調和を図ることも課題となっています。

今後の農業経営の課題 (n=114) 複数回答

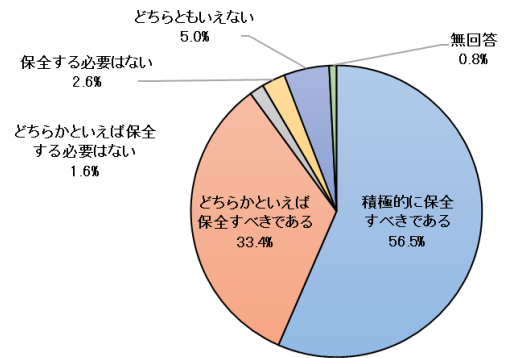


(6) 農地の保全について

稲城市の農地は減少傾向にあり、農地をどう保全すべきかが課題です。

市民アンケートでは、農地は保全すべきかの問いに89.9%の人が「積極的に保全すべきである」もしくは「どちらかといえば保全すべき」回答しています。

農地の保全について (n=497)

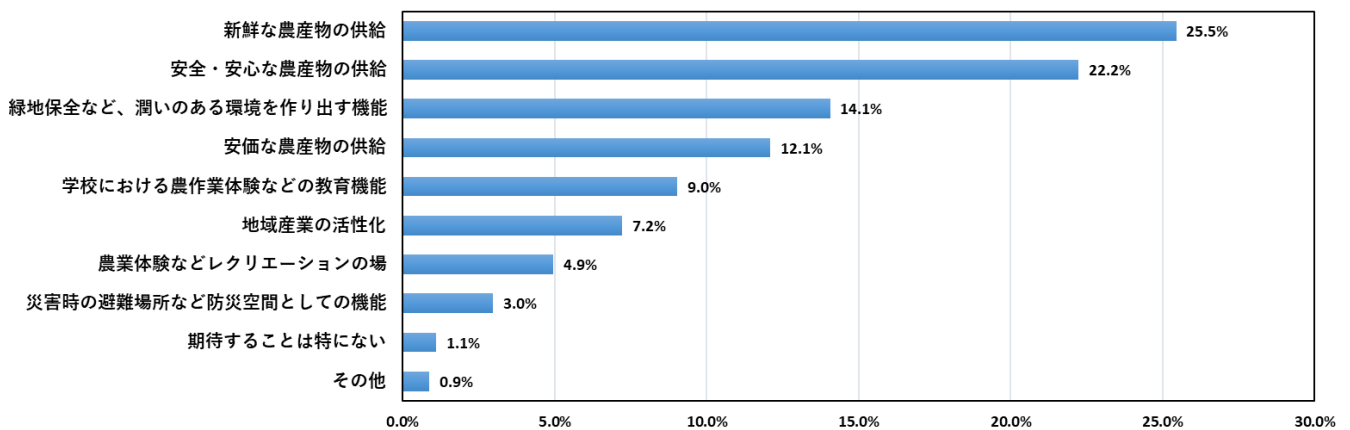


(7) 稲城農業への期待

市民アンケートの中で、稲城農業に期待することは第1位が「新鮮な農産物の供給」、第2位が「安全・安心な農産物の供給」であることから、食品に対する安全性を意識する消費者が多いことがわかります。また、消費者は地場産農産物について、新鮮さやおいしさ、品質の良さなどを評価しています。

このことから、地産地消を通じて、消費者と生産者とが「顔が見え、会話ができる」機会をより多く提供することにより、相互理解にもつながることが期待できます。このような消費者と生産者を結びつける地産地消を推進する必要があります。

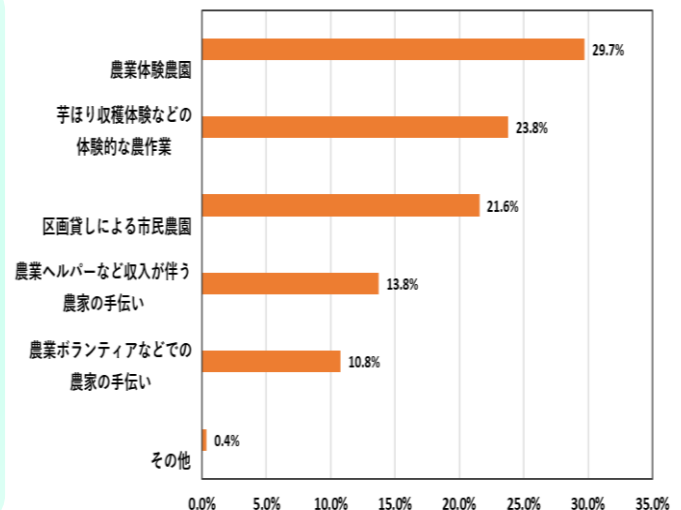
稲城農業に期待すること (n=497)



(8) 農業者と市民の交流

市民アンケートの中で、やってみたい農作業体験の内容については、第1位が農業体験農園の29.7%、第2位が収穫などの農業体験の23.8%と、農にふれる機会を求める声が多いことがわかります。農業の技術を学び、農作業を通じて心の豊かさや農家との交流を深めたいという市民ニーズに対応し、援農ボランティアなどの農家を支援するような取組みをさらに広める必要があります。また、稲城市では市内8ヶ所にファミリー農園、市内10ヶ所に農家開設型市民農園、市内1ヶ所に農業体験農園があり農にふれあう機会が多くあります。

どのような農作業体験をしたいか (n=183)



Ⅲ

稲城市農業の将来像と実現のための基本方針及び施策の体系

(1) 稲城市農業の将来像

稲城市の農業は、都市農業の特徴である市街地と農地が密接している中で周辺住民への配慮をしつつ、梨とぶどうについては、そのブランド力を活かした安定した農業経営が展開されています。野菜については、消費者の食に対する安全性への意識や地場産農産物の需要も高まっており、学校給食への安定的な納入やJAの共同直売所等での販売などの堅実な農業経営が行われています。一方、植木・花卉、酪農等については、生産者や経営規模等は減少しているものの、地域に根ざした経営が行われています。都市農業および都市農地は、農産物の供給とともに身近な農業体験の場や心安らく緑地空間の提供、災害時の避難場所としての防災空間など、多面的な機能を併せ持っています。

しかし、都市化の進展による農地の減少や後継者不足、あるいは周辺環境の変化など農業を取り巻く情勢の厳しさは依然として増しており、安定した農業経営基盤の確立や地域環境との共生を実現することのできる積極的な農業施策がこれまで以上に求められています。一方で、農業、農地を次世代に繋ぐためには、地域の理解や協力が欠かせないものとなっており、援農ボランティアや農業体験を通じて農への理解を深めることや農業者と市民の新たなコミュニティの形成なども重要な役割として求められています。

このような考え方から第四次稲城市農業基本計画の基本目標となる稲城市農業の将来像を次のように設定します。

次世代に繋ぐ、農とともに暮らすまち

(2) 将来像実現のための基本方針

【1】農業者が中心となり、市民がともに支える農業の確立

生産緑地制度等の農地の保全に繋がる制度周知の継続や、梨やぶどう、野菜等を生産する認定農業者を中心に、経営意欲向上のための新技術の導入への支援や、生産・加工・販売の取組み等他産業との連携強化等を図ることにより、付加価値の高い農業を推進することで、農業経営の安定化を図ります。また、援農ボランティア制度の推進により、農業者と市民が連携し、活力や魅力のある農業の確立を目指します。

【2】環境に調和した持続可能な農業の推進

環境への負荷を軽減し、持続可能な農業とするため、農業者、農業関係団体等と連携し、減農薬や防薬、防臭等の環境対策事業による地域住民への配慮を継続するとともに、気候変動に伴う環境変化に適応した取組みを推進します。

【3】農とふれあうことによる稲城農業への理解の促進

新鮮な農産物の直売や学校給食への供給による食育の推進、市民農園の拡充等により、地産地消を推進するとともに、農業者との市民交流事業を継続し、市民の農業への理解を深めます。

(3) 施策の体系



稲城市農業の将来像

次世代に繋ぐ、農やとまじり暮らし

《施策の柱》

《各施策の体系》

【1】

農業者が中心となり、市民がともに支える農業の確立

1 農地の保全

- ① 適正に肥培管理される生産緑地地区の保全・追加の推進
- ② 都市農地の貸借の促進
- ③ 農地の多面的な機能の周知

2 農業後継者や担い手の確保・育成

- ① 認定農業者等への継続的な支援
- ② 農業従事者に対する農業技術の継承及び経営改善支援
- ③ 新たな就農の促進
- ④ GAP への取組み支援による労働環境の整備、農業経営の改善

3 援農ボランティア制度の発展

- ① 援農ボランティア制度の周知・継続
- ② 援農ボランティアの更なる活性化

4 農業への理解の促進

- ① 市民が農を感じる機会の拡大
- ② 体験農園や観光農園の普及促進
- ③ 市の将来を担う子供たちへの食農教育の推進
- ④ 新たな東京ブランド・稲城ブランドの構築

【2】

環境に調和した持続可能な農業の推進

1 環境変化への適応及び負荷軽減

- ① 猛暑等の気候変動による環境変化への適応
- ② 農薬散布回数の軽減
- ③ 東京都工コ農産物認証制度の推進

2 地域と共生する農業の推進

- ① 周辺環境に配慮した生産方法の継続
- ② 農業者の取組み内容の周知
- ③ 地域と連携した“農のあるまちづくり”の推進

【3】

農とふれあうことによる稲城農業への理解の促進

1 市民が農業体験をする機会の拡充

- ① 農業体験農園の拡充
- ② 都市農地の貸借の円滑化に関する法律等の活用等による市民農園の開設

2 学校教育と連携した食育（食農教育）の推進

- ① 農業体験を通じた食農教育の推進
- ② 学校給食への地場産農産物の安定的な納入体制の確立

3 6次産業化の確立・販売ルートの開拓

- ① 観光や他産業との連携による農産物の加工・生産の推進
- ② 市外にもPR・販売できる仕組みづくり



稲 城 市

発 行 令和3年3月
編 集 稲城市市民部経済観光課
ホームページ <http://www.city.inagi.tokyo.jp>



©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市

梨の赤星病予防にご協力を

貝塚イブキ・玉イブキは梨の病気の伝染源になりますので、市内には植えないようご協力をお願いします。